

2026 年度統計関連学会連合大会の報告

運営委員長 中村智洋（京都女子大学）
実行委員長 富田 誠（横浜市立大学）
プログラム委員長 金森敬文（東京科学大学）

1. 大会概要報告

中村智洋（京都女子大学）

2026 年度統計関連学会連合大会は、2026 年 9 月 6 日（日）～10 日（木）に統計関連学会連合に所属する 6 学会（応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会）の主催により開催されました。横浜市立大学金沢八景キャンパスにて、6 日はチュートリアルセッション・市民講演会、7～10 日は本大会をオンラインと現地と併用するハイブリッド開催で行いました。

市民講演会の参加登録者は 117 名でした。また、参加登録者として、チュートリアルが 270 名、本大会参加登録者数は 1063 名でした。講演件数は 352 件（キャンセルを除く）にのぼり、今年度の大会は盛会のうちに終了しました。講演件数の内訳は、プレナリーセッション 1 件、企画セッション 125 件、一般セッション 194 件、コンペティションセッション 32 件でした。

今回は台風の影響による悪天候に見舞われましたが、大会が無事に終了し、また大会の円滑な運営を行うことができましたのも、ひとえに関係者の皆様のご理解とご支援によるものと心より感謝しております。講演者、座長、企画セッションオーガナイザー、参加者の皆様にお礼を申し上げます。今回の大会では、昨年に引き続き、講演報告集の電子版を標準とし、プログラム冊子を現地受付にて配布いたしました。参加人数も登録者数で千人を超えました。大会関係者として、改めて感謝いたします。例年と変わらぬご協賛をいただいた多くの企業・団体様にも重ねてお礼申し上げます。

25 回目という記念を迎えた連合大会は、これまでの経験を活かし、対面・オンラインのハイブリッド開催のノウハウを蓄積し、参加者の利便性向上と運営の効率化を目指して、外部委託による事務局業務の一部アウトソーシングを実施しました。特に、ウェブサービスや QR コードを活用した受付システムの導入により、情報管理の一元化や受付対応の円滑化が実現しました。このような試みにおいて、まだ改善の余地は残されているものの、6 学会の会員の皆様には温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

最後に、青嶋組織委員長、富田実行委員長、土屋実行副委員長、山本実行副委員長、金森プログラム委員長、清水プログラム副委員長、山田運営副委員長をはじめ、ボランティアで活動してくださいました、実行委員、プログラム委員および運営委員の皆様、横浜市立大学を中心とした職員およびアルバイト学生の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

2. チュートリアルセッション・市民講演会報告

富田 誠（横浜市立大学）・金森敬文（東京科学大学）

今年度のチュートリアルセッションは、9月6日（日）（13時から16時）に、科学研究における「再現性」の問題を統計学の視点から見直すことをテーマとして、二部構成で開催しました。第一部では、佐藤俊哉先生（統計数理研究所・滋賀大学）に「Before, After—ASA 声明、その後」というタイトルでご講演いただきました。再現性の危機をめぐる背景を振り返るとともに、2016年のASA声明とその後の議論を踏まえ、P値や統計的有意性の解釈、研究結果の不確実性、S値や脱条件化の考え方、統計教育における留意点などについて解説いただきました。第二部では、大関洋平先生（東京大学・国立情報学研究所）に「人間とAIの再現性危機」というタイトルでご講演いただきました。自然言語処理・認知科学の研究を中心に、研究成果を再現可能にするためのチェックリストや報告条件、さらに大規模言語モデルを研究の道具あるいは研究主体として用いる際に生じる再現性上の問題について紹介いただきました。また、AIがP値ハッキングなどの疑わしい研究行為を助長し得る例にも触れ、AI時代の研究において実験条件と利用モデルを明確に記録し、透明性の高い報告を行う重要性が議論されました。今回の講演は、統計学とAI・自然言語処理の双方から科学研究の再現性を考える大変良い機会であったと思われます。

今年度の市民講演会は、2026年9月6日（日）（16時30分から18時00分）に横浜市立大学 医学研究科長・公衆衛生学教室 主任教授である後藤温先生に「データサイエンスとともに拓くヘルスウェルビーイングなヨコイチ」というタイトルで、ご講演いただきました。本講演では、本学が、2025年に国の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択され、文理・医・看の融合と「よこはまデータサイクル」を基盤に卓越研究を推進し、社会課題の解決とイノベーション創出を通じて未来のヘルスウェルビーイング向上に貢献する大学を目指していることや横浜市や神奈川県内の各自治体との共同研究などが紹介され、大変有益なものでした。

最後に、チュートリアルセッションと市民講演会の開催に際して、御講演を快くお引き受けくださった 佐藤俊哉先生、大関洋平先生、後藤温先生、に心から感謝申し上げます。

3. プレナリーセッション、企画セッション報告

三枝祐輔（横浜市立大学）・金森敬文（東京科学大学）

連合大会初日の9月7日（月）午前に、プレナリーセッションが開催されました。

Prof. Christian P. Robert（Université Paris Dauphine-PSL, University of Warwick）から Bayesian Adversarial Privacy というタイトルでご講演いただきました。

また、本大会では、29件の企画セッションが開催されました。セッション名とオーガナイザー（敬称略）を以下に示します。

（整理番号）、テーマ名（セッション名）、オーガナイザー（敬称略、所属は申込情報を基に作成）

(01) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演（口羽文（帝京大）、伊藤ゆり（大阪医科薬科大）、川口淳（佐賀大）、島津秀康（北里大）、田栗正隆（東京医科大）、室谷健太（久留米大）、横田勲（北海道大））

(02) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療健康データ科学のフロンティア」

（松井茂之（京大・統計数理研究所）、伊藤陽一（北海道大学病院）、田栗正隆（東京医科大）、江村剛志（広島大））

- (03)統計エキスパート人材育成ー統計知の深化と高度活用ー (水田正弘 (統計数理研究所))
- (04)日本産業規格地域メッシュコード(JIS X 0410:1976) 50周年～これまでとこれから～ (佐藤彰洋 (横浜市立大))
- (05)パネル討論 討論テーマ「地域メッシュコードのこれまでとこれから」(佐藤彰洋 (横浜市立大))
- (06)プロモーションセッション (林邦好 (京都女子大))
- (07)統計のタイムリーな見直しー経済変貌の的確な捕捉を目指してー (肥後雅博 (東京大))
- (08)日本計量生物学会シンポジウム「AI時代になぜデータ同化なのか？」(櫻井玄 (農研機構), 川口淳 (佐賀大))
- (09)抗がん剤の臨床開発における最近の統計的諸問題 (弘新太郎 (ファイザーR&D 合同会社), 河合統介 (ファイザーR&D 合同会社))
- (10)医薬品開発への生物統計家の貢献ー産官学による「データサイエンスラウンドテーブル会議」の活動と今後の展望 (松井茂之 (統計数理研究所), 伊藤陽一 (北海道大), 山本英晴 (中外製薬), 土屋悟 (住友ファーマ), 菅波秀規 (興和), 富金原悟 (小野薬品工業), 安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構))
- (11)応用統計学会企画セッション「選択的推論の最近の展開」(川野秀一 (九州大), 長尾大道 (東京大))
- (12)応用統計学会学会賞受賞者講演 (松井秀俊 (滋賀大), 星野崇宏 (慶応義塾大))
- (13)日本統計学会各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演 (1) (青嶋誠 (筑波大))
- (14)日本統計学会各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演 (2) (青嶋誠 (筑波大))
- (15)歯科×統計・データサイエンス：実践と歯科領域からの期待 (高橋邦彦 (東京科学大), 口羽文 (帝京大))
- (16)データサイエンス系学部の現況 (植木優夫 (長崎大), 柴田裕一郎 (長崎大))
- (17)スポーツデータサイエンス (酒折文武 (中央大))
- (18)生成 AI 時代のデータサイエンスにおける統計学の役割 (上田雅夫 (横浜市立大))
- (19)アジアの公的ミクロ統計の活用 (馬場康維 (統計数理研究所), 岡本基 (統計数理研究所))
- (20)医療・健康データにおける異質性の理解とその臨床的・社会的応用 (新井崇弘 (多摩大), 大澤麻衣子 (埼玉医科大))
- (21)大規模データに対する差分プライバシーの有効性の追究 (佐井至道 (岡山商科大), 星野伸明 (金沢大), 伊藤伸介 (中央大))
- (22)AI 時代をどう生きるか？ 統計科学は何をすべきか (矢野恵佑 (統計数理研究所), 今泉允聡 (東京大), Stephen Wu (統計数理研究所), 菅澤翔之助 (慶應義塾大), 奥野彰文 (統計数理研究所))
- (23)公的統計における 2 次的利用の新展開とプライバシー保護研究の最新動向 (南和宏 (統計数理研究所), 伊藤伸介 (中央大), 高部勲 (立正大), 千田浩司 (群馬大))
- (24)日本統計学会統計教育委員会企画ー変革するデータサイエンス人材像と高大接続・文理融合に向けた教育体系再構築ー (竹内光悦 (実践女子大), 藤井良宜 (宮崎大), 渡辺美智子 (立正大))
- (25)臨床領域にかかわる統計家に求められる倫理と責任 (吉村健一 (名古屋市立大), 大津洋 (順天堂大))
- (26)最先端情報科学・統計学が牽引する地震研究の最前線 (長尾大道 (東京大), 加藤愛太郎 (東京大), 矢野恵佑 (統計数理研究所))
- (27)横浜市立大学のデータサイエンス教育 (佐藤彰洋 (横浜市立大))

(28) プレナリーセッション (赤池メモリアルレクチャー) (鎌谷研吾 (統計数理研究所))

(29) International Journal: JJSD Session by JSPS KAKENHI Grant Number 24HP2004 (清智也 (東京大), 江村剛志 (広島大))

4. コンペティションセッション報告

清水昌平 (大阪大学・滋賀大学)

2026年度は、9月7日(月)から9月9日(水)の3日間に、コンペティションセッションとして6セッションが設けられました。全部で43件の発表申込がありましたが、発表申込締切日までに関連学会への入会、あるいは入会手続きが確認できなかった申込については辞退いただき、最終的な発表件数は32件でした。審査では、今年度もこれまでと同様に、研究内容とプレゼンテーションの双方を評価対象としました。7名の審査員が審査を担当し、各発表に対してA、B、C、Dの評価を与えました。全審査員のスコアの最大値と最小値を除いた刈り込み平均により審査結果をまとめました。選考の結果、最優秀報告賞2件、優秀報告賞4件を選定しました。9月10日(木)12時10分から、対面およびオンライン併用形式で表彰式を行いました。最後に、審査員および座長をお引き受けくださった皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、ご発表いただいたすべての方々の研究が、今後ますます発展されることを心よりお祈り申し上げます。

今年度の表彰者は下記のとおりです。

■最優秀報告賞 (2件)

・永井 実葵 (総合研究大学院大学)

「Stein's method of moments と Wasserstein 幾何に基づくスコアマッチングの解析」

・菌部 成輝 (慶應義塾大学)

「非正規化モデルにおける判別を通じたベイズ推定」

■優秀報告賞 (4件)

・川戸 健太竜 (東京大学)

「観察データを活用した長期的因果効果の逐次推定のための適応的実験計画」

・片山 響 (慶應義塾大学)

「Non-Gaussian Tensor-on-Tensor Regression に基づくテンソル値データの正規性検定」

・野口 泰正 (東京大学)

「多次元レヴィ駆動SDEのDNNによるノンパラメトリックドリフト推定」

・牧 勇翔 (東京大学)

「無限次元データ生成における拡散モデルの効率性：次元非依存の近似誤差・推定誤差解析」

5. コンペティションセッション受賞者の言葉

■最優秀報告賞

永井 実葵 (総合研究大学院大学)

この度は 2026 年度統計関連学会連合大会コンペティション講演セッションにおいて、最優秀報告賞をいただき、誠に光栄に存じます。本大会の企画・運営ならびに審査に携わられた先生方に心より感謝申し上げます。また、日頃より親身にご指導くださっている矢野恵佑先生にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。本報告では、非正規化モデルの推定法であるスコアマッチングを Stein's method of moments と Wasserstein 幾何を通して解析することにより、漸近分散を改善する推定量の構成と漸近有効性の特徴づけを示しました。今回の受賞を励みに、より一層精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

藺部 成輝（慶應義塾大学）

この度は「最優秀報告賞」に選出していただき、大変光栄に存じます。審査にあたられた皆様、大会の準備・運営に携わられた皆様に、心より御礼申し上げます。また、日頃よりご指導いただいている菅澤翔之助先生、共同研究者の持橋大地先生、松田孟留先生、菅澤ゼミの皆様にも深く感謝いたします。今回の報告では、複雑な依存構造を持つデータの解析に有用な非正規化モデルの推定を扱いました。このモデルは、確率分布として成立させるために必要な定数を計算することが難しく、尤度に基づく推定が困難です。そこで、データと人工的に生成したノイズを識別する「ノイズ対照推定」の考え方を取り入れ、新たなベイズ推定手法「NC-Bayes」を提案しました。また、理論解析、シミュレーション、実データ解析を通じて、従来手法に対する本手法の優位性を示しました。今回の受賞を大きな励みとして、今後もより良い研究に取り組んでまいります。

■優秀報告賞

川戸 健太竜（東京大学）

この度は、優秀報告賞という栄誉ある賞にご選出いただき、誠に光栄に存じます。本大会の企画・運営に携わられた皆様、ならびにご審査いただいた先生方に心より感謝申し上げます。また、日頃より熱心にご指導いただいている奥井亮先生、加えて東京大学経済学研究科統計コースのメンバーの皆様に深く感謝申し上げます。本研究は、顧客生涯価値などの長期的な結果に対する因果推論について、最適な適応的実験デザインを提案しました。企業などに蓄積された履歴のデータにおいては、顧客の長期の購買行動が観測される一方で、関心のあるクーポンなどの処置はこれまでに実施されておらず、観測できない場合があります。そのような設定で、これからクーポンを顧客に配布する実験を行う際に、履歴のデータを踏まえながら最適な実験参加者と処置の割り当てをデザインすることが可能となります。それにより、企業の早期の意思決定につながる効率化と早期停止のための方法論を提案いたしました。報告においては、多くの貴重なご意見をいただき、大変有意義な機会となりました。今回の受賞を励みに、今後も統計学および計量経済学の発展に貢献できるよう、一層研究に精進して参ります。

片山 響（慶應義塾大学）

この度は、優秀報告賞をいただき大変光栄に思います。本大会の企画・運営ならびに審査にご尽力くださいました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。また日頃より手厚くご指導・ご助言をくださる指導教員の白石博先生をはじめ、慶應義塾大学統計関連研究室の先生方および関係者の皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。本発表では、「テンソル値データ解析」の一環として、分布に関する仮定を緩和したテンソル値線形回帰モデル（Non-Gaussian ToTR モデル）を提案し、その漸近的結果に

基づくテンソル値データの正規性検定手法について報告いたしました。今回のコンペティション講演や学会での貴重な体験を大きな糧とし、今後の研究活動に一層邁進してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

野口 泰正（東京大学）

このたびは、コンペティションセッションにおいて優秀報告賞をいただき、大変光栄に思います。日頃より丁寧にご指導いただいている指導教員の荻原哲平先生に、心より感謝申し上げます。また、研究室セミナー等を通じて研究内容について多くのご意見やご助言をくださった数理第4研究室、数理データ科学研究室の先生方、学生の皆さまにも深く感謝いたします。皆さまとの議論を通じて研究をより深め、今回の発表につなげることができました。さらに、このような貴重な発表の機会を設けてくださった大会関係者の皆さま、発表を聞いてくださり、貴重なご質問・ご講評をくださった審査員の先生方に御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後もより良い研究成果を目指して研究に励んでまいります。

牧 勇翔（東京大学）

このたびは、コンペティション講演において優秀報告賞を賜り、誠に光栄に存じます。本大会の企画・運営ならびに審査に携わられた関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。また、日頃からご指導いただいている鈴木大慈先生をはじめ、研究室やセミナーで議論や助言をくださっている皆様にも、心より感謝申し上げます。本報告では、無限次元データを対象とする拡散モデルについて、データの滑らかさや共分散構造に基づき、生成分布と真の分布の誤差を理論的に評価しました。拡散モデルは、近年の画像生成などにおいて高い性能を示す生成モデルです。その生成精度について、データの次元に依存しない統計的保証を与えられたこと、そしてその理論的な成果をご評価いただけたことを、大変嬉しく思っております。今回の受賞を励みに、今後も一層研究活動に精進してまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。